

PLUS

Platform for Lake Underwater Survey Science
「はっけん号」を使った琵琶湖における新しい実験プラットフォーム

実験 プラットフォーム

PLUSは わが国の水圏科学技術向上に資するため琵琶湖において実験調査船「はっけん号」を配して新しい実験プラットフォームを提供します

未来への 「水」技術創出

世界をリードする水圏科学技術を創出するとともに「水」をキーワードとした多様で創造性に富んだ未来への産業システム構築に寄与します

環境への貢献

水圏の環境監視および環境保全に役立つ活動と学生や技術者向けの環境教育や指導等を行なうことで湖とその周辺の多様な生態系の保全に貢献します



BiwakoTrust

山・川・湖「キレイ」を、あしたへ。

認定特定非営利活動法人

びわ湖トラスト



PLUS S

Platform for Lake Underwater Survey Science
「はっけん号」を使った琵琶湖における新しい実験プラットフォーム

実験調査船「はっけん号」

実験調査船「はっけん号」は、琵琶湖研究所(当時)が1990年度から1991年度にかけて国内外の観測船を実地に調査し、多くの議論の後に、1993年3月に建造した36トンの双胴船です。1993年の琵琶湖国際共同観測(BITEX'93)に参加し、2000年からは自律型水中ロボット「淡探(たんたん)」の母船として活躍しました。現在でも世界トップクラスの性能を有する調査船として国内外で高く評価されています。

特徴としては、重量物を吊り上げるガントリークレーンやADCPや計量科学魚探など高機能の計測機器を装備していること、夜間調査が可能なこと、深い場所でも係留ができることなどが挙げられます。また、ドライラボとウェットラボの両方を完備しているので、学際的な調査研究には最適な研究環境を提供できます。

「琵琶湖応援隊」への誘い

認定特定非営利活動法人びわ湖トラストでは、琵琶湖の調査研究を行っている周辺の大学等と連携して琵琶湖調査研究推進評議会を立ち上げ、はっけん号の共同利用を進めています。また、民間企業や市民からなる琵琶湖応援隊を組織し、はっけん号の運用と実験調査を支援するための寄付金を募集しています。

船名	はっけん号
種目	汽船
進水年月	平成5年3月
総トン数	36トン
定員	16名
船質	軽合金
航行区域	平水区域 ただし、湖川内に限る。
船型	一層甲板型双胴船型
全長	18.90m

幅	6.20m
喫水	0.80m
航海速力	20ノット
主機関	8V-92TAHi ゼネラルモーターズ 525ps/2,170rpm × 2基
発電機	30kVA
装備	ガントリークレーン × 1基 採水ウィンチ・ダビッド × 2基
備品等	多層式超音波流速計 (ADCP) 、 計量科学魚群探知機

「はっけん号」の共同利用

はっけん号の使用料は、1日あたり20万円～30万円程度です。
ご利用の形態によって、利用料金は上下します。
共同利用の詳細や申し込み等は、下記事務局までお問い合わせ下さい。